

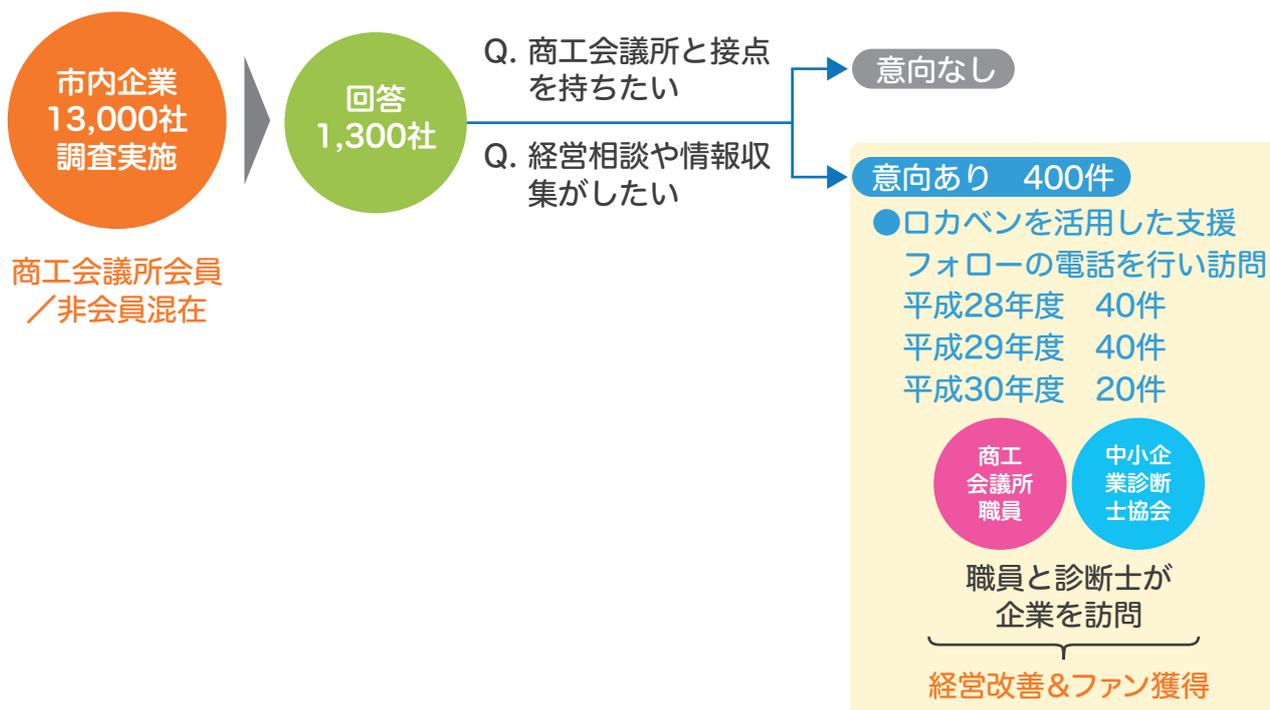
## ●地域企業への経営支援から会員維持・獲得に繋げる ロカベンの活用

- 名称：高松商工会議所
- 代表者：会頭 泉 雅文
- 所在地：香川県高松市番町2-2-2
- 創立：明治13年2月
- 従業員数：40名

### 導入経緯

2015年に高松商工会議所は地域の小規模事業者を強力に支援していくために、経営発達支援計画の認定を受けた。

当時、高松商工会議所では、商工会議所の会員数減少も課題として感じており、小規模事業者の経営支援に加え、会員獲得も一つの目的とし、以下の取り組みを行った。



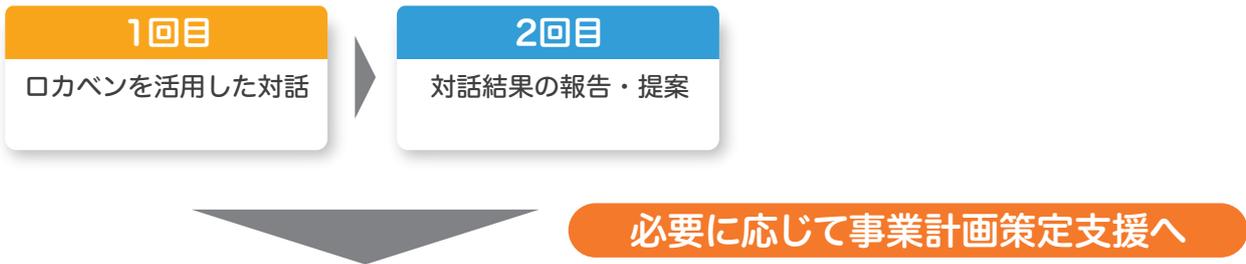
### ●ロカベン導入のポイント

高松商工会議所がロカベンの活用を決めた背景としては以下のポイントがある。

- ・ 商流や業務フローなど、小規模事業者にもわかりやすい内容である。
- ・ 将来的に商工会議所職員が自ら取り組むことができる内容である。
- ・ 専門家(中小企業診断士)がそれぞれのやり方ではなく、一定のルールで支援を行うことが可能。
- ・ ツールを統一することで、同席している商工会議所職員のトレーニングにもなる。

## 取り組み体制の構築

企業訪問は専門家（中小企業診断士）と職員同席で全2回訪問を実施。  
訪問回数に制限はあるものの、専門家の対話方法や提案についてOJT形式で職員が学べる。



また、個別にさらに踏み込んだ支援として、「事業計画策定支援」を行っている。  
これは全4～5回程度、専門家（中小企業診断士）と職員同席で訪問し、ロカベンで現状認識が明らかになり、特に営業面で課題のあった企業に対し、複数年の事業計画策定を支援している。  
月次の販売目標や新商品・サービスの提供、広告のタイミング、資金繰りなど総合的に事業計画を立てている。

## 活用の効果・課題

### ①【地域の小規模事業者の実態把握・経営支援】

一連の取り組みにより、高松商工会議所として、これまで接点を十分に持てていなかった会員企業や、経営相談したかったが踏み切れなかった企業、様々な情報を取り入れて視野を広げたい意向をもった企業などの実態把握や、経営改善の第一歩となる支援を行うことができた。

### ②【職員教育】

企業訪問時に活用するツールをロカベンに統一したことで、専門家毎に企業支援のツールや方法が異なっていた状況が改善され、支援ノウハウの蓄積・共有や支援レベルの底上げにつながった。

### ③【商工会議所の活性化】

このプロジェクトを機に関係を構築し、新たに商工会議所に加盟、セミナーや相談会に参加など、商工会議所の活動に積極的に参加していただける企業が増えた。

## 支援機関の声

小規模企業支援の取り組みの中に、ロカベンを取り入れたことで、人材育成や企業の実態把握、経営改善の取り組みとして第一歩を踏み出せた。また、このようなアクションを起こしたことで商工会議所の取り組みにも積極的に参加していただける企業が増えたことで、商工会議所全体の活性化にもつながっている。

企業訪問を行うのは1年に40社程度と、まだアンケート調査で商工会議所と接点を持ち、経営相談や情報収集を行う意向のある企業すべてに対応できてはいないが、今後訪問企業数を増やすため、専門家の同行が無くともロカベンを活用できるよう、スーパーバイザー事業（※）にも参加するなど職員の教育に取り組んでいる。

※日本商工会議所が主導し、専門家（スーパーバイザー）が、OJTを通じて各商工会議所の若手職員の支援スキルを育成する事業